

公益社団法人日本青年会議所 2025 年度 基本方針	
新潟ブロック協議会 会長 若桑 正樹	
ブロック協議会の理想の未来	一人ひとりが当事者という事を自覚し、地域を変えたと誇れる人財を創造する 一人ひとりが青年会議所の理念を共感し感じながら活動し、地域の次世代を担う青年たちがリーダーという自覚を持ち未来を切り拓く、自らが変えたのだと誇れるメンバーを増やします。
ブロック協議会の役割	ブロック協議会は本会や地区協議会と県内 LOM との総合連絡調整機関であると同時に県内 LOM に対して会員拡大支援や、入会 3 年目未満の会員の教育の支援を打ち出すことが大切な役割です。また今後の各 LOM の未来を考えると各 LOM の事業支援に留まらず、会員拡大や県外 LOM 及び他団体との交流の起点とし県全体で盛り上げていく必要があります。
ブロック連携事業 (政策手法)	1. 地方創生による地域経済活性化に繋がる仕組み構築に向けた運動
	各地域から全体最適化が可能な質の高い事業を収集することで、地域間の連携を強化し、外部からの視点を取り入れ地域の魅力を発掘します。その魅力を地域内の各種ステークホルダーや地域間の協力により、各地で使える枠組みにして全国に広めることを目的とします。新潟県内 21LOM からヒアリングを行い、今まで行った質の高い運動になっている事業を調査し、運動構築支援委員会に支援をいただきながら、事業構築の仕方や地域との連携を発信していきます。また各 LOM の対外例会及び事業内容をより詳細に共有できる仕組みを構築し各 LOM の質の高い事業を県内外へ発信します。
	2. 地域に眠る活用しきれない資源の調査・発掘・研究
	年間を通じて、地域に眠る活用しきれない資源を外部の視点を交えて調査発掘をします。有識者や、関係機関と連携し、経済活動として利益を生み出しつつ環境保全にも貢献する好循環モデルを研究します。各 LOM が地域のステークホルダーを巻き込みインバウンドを推進し、地域経済が活性化するための支援を行います。
	3. 誇れる組織への改革に向けた運動を加速させる各種プログラムの実施・支援
	JC プログラムの JCI Achieve や JCI Impact をブロック協議会主導で開催します。地域の課題を見出し、地域社会を巻き込んだ事業を行うための JCI アクションフレーム(JAF)を活用し、社会参加の概念や地域コミュニティのニーズの分析で運動構築のヒントを得ることを目的にブロック協議会と連携しながら支援を行います。JCI Achieve や JCI Impact をブロック協議会主導で開催します。実施に伴い、LOM の状況に応じた育成モデルを推進することで全 LOM 対象として実施するものと分けをして展開していきます。
	4. ブロックアカデミーにおける JAYCEE 育成カリキュラムの運用
	組織を活性化させるためにはメンバーが共通の価値観を持つことが不可欠ですが、現状は JC 在籍歴が短いメンバーが多く、必ずしも価値観が統一できていない状態にあります。まずは各地域に共通して適用できる育成カリキュラムを、協議会と連携して実施する必要があります。入会 3 年目のメンバーが多く JC の目的が分からないメンバーが増えています。入会 3 年目未満のメンバーを委員会メンバーに迎え入れアカデミーを開催します。毎月委員会に講師(日本青年会議所役員経験者、ブロック内理事長経験者)を招き青年会議所の基礎、基本の勉強会を開き地域の課題を見つけてもらいます。
5. 理念共感拡大グランドデザインの検証	
	人が自然と集まる組織をビジョンに掲げた中期計画の理念共感拡大グランドデザインが最終年度をむかえるにあたり、現状の把握と 5 年間の効果について調査する必要があります。理念浸透サーベイの実施とその分析を軸に、目標達成に向けた理念浸透率や具体的なアクションの促進状況についてブロック協議会と連携し、検証を行います。各 LOM の理念共感の浸透率はかなり低い状況だと考えられます。青年会議所に入会しているからには理念共感の大切さを知ってもらい、各 LOM メンバーに浸透させると同時

新潟ブロック協議会 会長 若桑 正樹

**ブロック協議会の
理想の未来**

一人ひとりが当事者という事を自覚し、地域を変えたと誇れる人財を創造する
一人ひとりが青年会議所の理念を共感し感じながら活動し、地域の次世代を担う青年たちがリーダーという自覚を持ち未来を切り拓く、自らが変えたのだと誇れるメンバーを増やします。

ブロック協議会の 役割

ブロック協議会は本会や地区協議会と県内 LOM との総合連絡調整機関であると同時に県内 LOM に対して会員拡大支援や、入会 3 年目未満の会員の教育の支援を打ち出すことが大切な役割です。また、今後の各 LOM の未来を考えると各 LOM の事業支援に留まらず、会員拡大や県外 LOM 及び他団体との交流の起点とし県全体で盛り上げていく必要があります。

**ブロック連携事業
(政策手法)**

1. 地方創生による地域経済活性化に繋がる仕組み構築に向けた運動
各地域から全体最適化が可能な質の高い事業を収集することで、地域間の連携を強化し、外部からの視点を取り入れ地域の魅力を発掘します。その魅力を地域内の各種ステークホルダーや地域間の協力により、各地で使える枠組みにして全国に広めることを目的とします。新潟県内 21LOM からヒアリングを行い、今まで行った質の高い運動になっている事業を調査し、運動構築支援委員会に支援をいただきながら、事業構築の仕方や地域との連携を発信していきます。また各 LOM の対外例会及び事業内容をより詳細に共有できる仕組みを構築し各 LOM の質の高い事業を県内外へ発信します。
2. 地域に眠る活用しきれていない資源の調査・発掘・研究
年間を通じて、地域に眠る活用しきれていない資源を外部の視点を交えて調査発掘をします。有識者や、関係機関と連携し、経済活動として利益を生み出しつつ環境保全にも貢献する好循環モデルを研究します。各 LOM が地域のステークホルダーを巻き込みインバウンドを推進し、地域経済が活性化するための支援を行います。
3. 誇れる組織への改革に向けた運動を加速させる各種プログラムの実施・支援
JC プログラムの JCI Achieve や JCI Impact をブロック協議会主導で開催します。地域の課題を見出し、地域社会を巻き込んだ事業を行うための JCI アクションフレーム(JAF)を活用し、社会参加の概念や地域コミュニティのニーズの分析で運動構築のヒントを得ることを目的にブロック協議会と連携しながら支援を行います。JCI Achieve や JCI Impact をブロック協議会主導で開催します。実施に伴い、LOM の状況に応じた育成モデルを推進することで全 LOM 対象として実施するものと分けをして展開していきます。
4. ブロックアカデミーにおける JAYCEE 育成カリキュラムの運用
組織を活性化させるためにはメンバーが共通の価値観を持つことが不可欠ですが、現状は JC 在籍歴が短いメンバーが多く、必ずしも価値観が統一できていない状態にあります。まずは各地域に共通して適用できる育成カリキュラムを、協議会と連携して実施する必要があります。入会 3 年目のメンバーが多く JC の目的が分からないメンバーが増えています。入会 3 年目未満のメンバーを委員会メンバーに迎え入れアカデミーを開催します。毎月委員会に講師(日本青年会議所役員経験者、ブロック内理事長経験者)を招き青年会議所の基礎、基本の勉強会を開き地域の課題を見つけてもらいます。
5. 理念共感拡大グランドデザインの検証
人が自然と集まる組織をビジョンに掲げた中期計画の理念共感拡大グランドデザインが最終年度をむかえるにあたり、現状の把握と 5 年間の効果について調査する必要があります。理念浸透サーベイの実施とその分析を軸に、目標達成に向けた理念浸透率や具体的なアクションの促進状況についてブロック協議会と連携し、検証を行います。各 LOM の理念共感の浸透率はかなり低い状況だと考えられます。青年会議所に入会しているからには理念共感の大切さを知ってもらい、各 LOM メンバーに浸透させると同時

	に各 LOM での研修に取り入れてもらえるようにブロック協議会から働きかけをしていきます。
ブロック協議会 独自の事業	1. ASPAC 新潟大会に向けたブロック連携
	<p>【背景】</p> <p>2026 年に ASPAC 新潟大会を新潟青年会議所主管で行います。コロナ禍での主管、副主幹締結だったため ASPAC が新潟で行われることを知らないメンバーが多くいます。県内の LOM に周知をして新潟全体で盛り上げていく必要があります。</p> <p>【目的】</p> <p>新潟県内 21LOM に ASPAC とはどのような大会なのかを周知し、協力体制を築きます。</p> <p>【手法】</p> <p>ASPAC 新潟大会を開催することで得られる効果を共有しブロック内の参加率を上げるために、過去に日本国内で行った大阪ブロック協議会、鹿児島ブロック協議会、堺高石青年会議所、鹿児島青年会議所からブロックと LOM が連携をどのように行ったかを調査し、ブロック内で周知します。また、2026 年に向けて新潟青年会議所と連携をして ASPAC を開催するために県内 21LOM はどのように関わりを持つか(新潟県内行政との連携、飲食店への多言語化対応依頼、ホテルへの協力依頼、各地域で行われるエクスカーシンの準備等)を準備していきます。2025 年 ASPAC ウランバートル大会でのブース出展協力を行います。</p>
	2.新潟ブロックコンファレンスの計画・開催
	<p>【背景】</p> <p>より良い新潟県の実現に向けて新潟ブロック協議会は毎年、各 LOM の支援をしながら、新潟県を牽引するための様々な運動を展開しています。この私たちの運動は多くの方との調和によって 成り立っており、2025 年度も力強く運動を推進していくために、新潟ブロック協議会をはじめ、各 LOM との連携の礎を築く場が必要です。</p> <p>【目的】</p> <p>各 LOM、各種団体が新潟ブロック協議会と連携する機運を高めてもらうことを目的とします。</p> <p>【手法】</p> <p>本事業は、新潟ブロック協議会の基本方針と委員会の 1 年間の活動について式典を通じて、各 LOM、各種団体にお披露目し、1 年間協力していただけるよう周知していきます。また、各 LOM の交流の場となる懇親会を設営し、会話を重ねることで、メンバー同士の信頼、友情を構築してブロック協議会内 21LOM の連携を深めてもらう機会とします。</p>
	3.JC カップ U-11 少年少女サッカー大会の計画・実施
	<p>【背景】</p> <p>同じ地域に住まう人々が互いに思いやる社会を実現していくために、地域の未来を担う子どもたちにスポーツの力を通じ、協力しあう必要性と他者への思いやりの大切さを兼ね備えた人財の育成が必要です。</p> <p>【目的】</p> <p>素朴で純粋な親切心で人々が助け合う社会を実現していくために、地域の未来を担う子どもたちにスポーツの力を通じ、協力し合うことの価値を体感してもらうことで、他者を思いやる心とあくなき挑戦心を兼ね備えた人財を育成します。</p> <p>【手法】</p> <p>子どもたちに誰もが輝ける場所を提供することで、多彩な人財が活躍するための土壌を作ります。多様</p>

	<p>性を認め合うことがよりよい社会へと繋がるという意識を醸成することに加え、共にスポーツでわかり合い、お互いの違いを認め、尊重し合う共生社会を実現する事業を実施します。また、開催方法については JC カップの地区予選と同時開催するものとし、JC カップ出場者を主な対象者とし体験の機会を提供します。</p>
	<p>4.防災ネットワークの体制強化</p>
	<p>【背景】</p> <p>近年、日本国内においても様々な自然災害が起こっているため、市民のリーダーとして活動をする JC は災害時も率先して行動をすることが大切であり、ブロック協議会は日頃から防災に備えた各 LOM の連携強化をする必要があります。</p> <p>【目的】</p> <p>発災時の県内 21LOM の連携体制を確認することを目的とします。</p> <p>【手法】</p> <p>震災が増えている昨今の状況を把握しブロック協議会が起点となって県内 21LOM に対して災害情報の共有を迅速化及び災害発生時の即動力向上のための組織体制の構築を行います。新潟県内 21LOM は共通の認識を持ち災害に備えることで有事の際、迅速に災害支援に取り掛かれる体制づくりを強化します。</p>
	<p>5.青少年育成事業の計画・実施</p>
	<p>【背景】</p> <p>社会課題を認識して課題解決に向けて取り組むためには、当事者意識を持つことが大事ですが、普段の私生活では社会課題に気付く場面も多くありません。子どもたちが様々な観点から物事を考えるきっかけを早い段階で得ることができれば、将来の地域の中核を担う青年として成長し、社会で活躍する可能性が高まります。</p> <p>【目的】</p> <p>子どもたちに新潟の魅力や課題を知ってもらうことを目的とします。</p> <p>【手法】</p> <p>子どもたちが普段の私生活や学校では学ぶことができない実体験の体験学習をブロック協議会として開催します。各 LOM には体験学習の場所の提供、地域で行われている青少年事業の提案などの連携をいただき各 LOM の地域だけではなく県内から集まった子どもたちに体験をしていただきます。</p>
	<p>6.新潟ブロック大会の実施</p>
	<p>【背景】</p> <p>より良い新潟県の実現に向けて新潟ブロック協議会は毎年、各 LOM の支援をしながら、新潟県を牽引するための様々な運動を展開しています。この私たちの運動は多くの方との調和によって成り立っており、2025 年度も力強く運動を推進していくために、新潟ブロック協議会をはじめ、各 LOM との連携の礎を築く場が必要です。</p> <p>【目的】</p> <p>各 LOM、各種団体が新潟ブロック協議会と連携する機運を高めてもらうことを目的とします。</p> <p>【手法】</p> <p>新潟ブロック協議会の運動のまとめと、2026 年度への引継ぎを行います。</p>
ブロックによる LOM 支援の	<p>1. ブロックアカデミーの実施:入会 3 年未満の会員に出向してもらい青年会議所の目的を学んでもらいます。青年会議所の目的とはなにか、どういうことをする団体なのかをわからないメンバーが多いいま</p>

実施内容	<p>す。根本がわからないから伝えられないまま拡大をしても青年会議所に入会してもらえない、入会しても退会をするため３年目未満のメンバーにわかりやすく青年会議所の活動の今般を伝えます。</p> <ol style="list-style-type: none">2. 会員拡大支援:各 LOM と連携しブロック協議会一丸となり会員拡大を行います。3. 理念共感:本会から役員経験者や議長委員長に協力いただき理念の共感を行います。
-------------	--